

高等図書館宣言

平成十八年二月

高等図書館

宣言

高等国策の名のもとに、我々は、近代政治・経済・軍事などの一般水準を超えた、根源的、高次的、巨大時空的な国策の設計を意志する。

根拠の確認

- 一、その第一根拠は、二十一世紀現在の時代画期への基本的要請にある。
- 二、その史的根拠は、古代日本の律令期神祇官体制の創造的再建にある。
- 三、高等図書館は、その運営機関であり、民間人有志が運営主体となる。

〔補説〕

宣言の補説

(1) 根源的：近年、近代的国策の破綻が随所にうかがえる。我々は改めて国策なるものを、その根底、基盤、原型から問い直し、模索し、設計する必要を覚える。

(2) 高次的：眼前には、多元、重層、矛盾を極めた複雑な日本・世界時空が横たわる。我々は今日、現象界のみならず、形而上、宇宙構造など、までも国策に包括すべき時代に至ったと認識する。

(3) 巨大時空間：百数十年間にわたる近代時空では、万般既空間とを、吟味視野に入れて策を立てる時代に至ったと認識する。

根拠の確認の補説

(1) 時代画期：主に文明的水準で時代が要請する、大仕掛けな変転である。場面変容である。それは民族、国家、人類的な緒力と絡んだ意志が選択する、新地平と言える。

(2) 律令期神祇官体制：一言に括（くく）れば、神祇官は古代日本の高等国策機関であり、その担当者たちである。

平安中期以降、神祇伯が白川家に世襲されたことは、当世界の小規模化と、ある種の私的性格化を導いたこととは否めない。

(3) 創造的再建：我々は復古をめざすものではない。またそれは不可能である。旧神祇官体制の史実と、その世界像の価値と意義を認め、その意を汲んだ新地平の創造である。

(4) 民間人有志……ここに、祭政・高等国策史上の主体を、端的に、カミ（神）、キミ（君）、オミ（臣）、タミ（民）の四者構造で示したい。大まかに、原初はカミ、古代はキミ、中世・近世・近代はオミが推進主体であった。しかし今日、その文明位相において、初めてタミが推進主体として登場する画期を迎えた。近代のオミたる政治家・華族・官僚、その他上流層がタミを導く役柄は終焉した。

かつ、タミは、その時代画期の要請において、それら四者を高次統合すべき役柄を課される。即ち、カミを見出し、キミの歴史を知り、オミの使命を継ぐ、という統合者の位置を負わされる。

設計事業および検証事業の項目一覧

基幹設計

方伎体系

(一) 高等国策受霊方伎

上古の旧世界において「宇氣比」などの名で知られる、形而上界に神示を問う方式があったが、その意を汲んだ今日的設計である。

(二) 対諸民族方伎

主に国際問題への対応である。特に複雑な因縁を有する東アジア（中国大陸・韓半島）の国家・民族関係策などにまつわる高次設計である。(一)と重なる側面が多い。

(三) 建国因縁策方伎

主に自国の基底への対応である。倭国・日本の形成史にまつわる旧地域政権などの複雑な因縁を見究め、浮上させ、鎮魂する、方伎の設計。これは他面で、現日本人の精神的世界像や、倫理の根拠などを見出し、ゆく道でもある。

(五) 統合辟邪方伎

古来、辟邪は緒宗教、緒習俗単位で各種試みられてきた。しかし今日の巨大な濾過性病原体の問題などの状況下に、前代の水準を超えた精度の方伎が求められている。

応用設計

- ・量子医学的応用設計
 - ・未病健身策設計
 - ・農業原理・農地土壤改良設計
 - ・精神技法開発設計（脳力開発など）
- その他多くが可能である。

調査・検証

以上の諸設計には、膨大な調査と検証の作業が前提となる。本館所属研究員の充実化 及び外部研究委嘱などが不可欠となる。

特別確認補説

高等図書館と白川学館

前記各所で、神祇官と白川家の微妙な史的経緯、並びに公私関係などについて触れた。高等図書館の設立は、白川家ゆかりの者たちの発案に成るが、二十一世紀の時点で、既に一旧公家筋の範囲を超えた課題であることは明らかである。因みに白川家本家筋は、戦後資長公を最後に絶えていく。ゆえに、白川学館は、

(一) 史的家系の縁を一応の軸とした、伝承、実修、研鑽、情報蓄積の機関である。

(二) その限りで、白川学館は、ある種私的性格に傾いた機関である。対するに、高等図書館は、より公的性格に傾いた機関である。伝統を重んじつつも、新たな時代要請に応ずべく世界史から量子物理学までをも含む諸設計をなす場である。

(三) 以上から、特に運営面における両者の差違性、相互性、統合性などの諸局面について、透明性を常に心掛けねばならない。

以上

平成十八年二月